

model MN-301R

メタルウェーハース式 積雪重量計

～使用用途～

- 平野部・山間部等の積雪量の測定
- 河川・ダムの水管理
- 構築物等の雪下ろし適期の判断
- 積雪深計と組み合わせて雪氷災害等の予測



～主な機能～

- インターバル測定 : 1 ～ 999 分の間で設定可能
- アナログ出力 : 電圧出力 (0-2,500 kg / m² : 0-2,500 mV)
- デジタル出力 : RS-232C (測定日時・積雪重量値)
- 時計機能 : 手動入力 (西暦・月・日・時間)
- 表示機能 : LCD 4 段表示 (日時・測定時間・測定値・温度)

仕 様

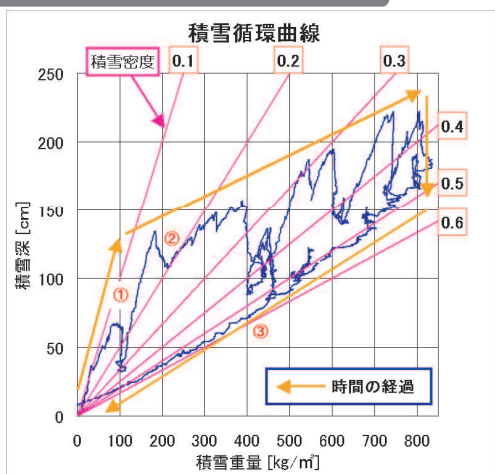
電源電圧	AC100V (許容変動範囲±10%)	50/60Hz兼用
周囲温度	-30 ~ +40°C (測定部)	-10~+50°C (データ処理装置)
計測方法	メタルウェファア上の積雪重量を圧力センサーから電気信号に変換	
測定範囲	積雪重量=0~2,500kg/m ²	
測定精度	±10 kg/m ²	
表 示	LCD 20文字×4行 測定日時、積雪重量(*kg/m ²)、温度(*°C)	
出力信号	デジタル出力 RRS-232C規格準拠 ASCIIコード アナログ出力 0~2,500 kg/m ² / 0~2,500 mV DC	
材 質	メタルウェファア本体	SUS 304
	圧力センサーボックス	SUS 430
	データ処理部	SPCC
重 量	メタルウェファア本体	約10kg (不含・不凍液) /枚
	圧力センサーボックス	約7kg (含・圧力センサー)
	データ処理部	約4kg
寸 法	メタルウェファア本体	W・H・D = 2,000・1,000・10
	圧力センサーボックス	W・H・D = 700・175・205
	データ処理部	W・H・D = 480・149・295

～積雪循環曲線《参考》～

1953年に大沼匡之先生が考案されたもので一冬期の積雪深と積雪重量値をXY座標上に表示した(グラフ表示)ものを積雪循環曲線といいます。このグラフは、原点からスタートし、原点へと戻ります。

積雪循環曲線は、積雪深・積雪重量・積雪平均密度の一冬期間での変化を1枚のグラフに表示しますので、積雪の状況変化を効果的に判断できます。

積雪循環曲線の見方



※新潟県栃尾市木山沢(1998年)における積雪深と積雪重量データを使用し、表計算ソフトで描いた積雪循環曲線です。

- ①の様に、急激な右肩上りとなっている時は、積雪深の増加が急激なので、降雪が続いていることが読取れます。
- ②の様に、右肩下りとなっている時は、積雪深のみが減少しているため、積雪が沈降していることが読取れます。(雨・日射)
- ③の様に、左下りとなっている時は、積雪深、積雪重量ともに減少しているため、融雪が起きていることが読取れます。
- 積雪循環曲線では、積雪平均密度変化が連続的に読取れますので、積雪の変化も予測することができます。又、降雪期・融雪期の判断も可能です。

名 刺

〒940-1101 新潟県長岡市沢田1丁目3535番地41
TEL 0258-31-8220 FAX 0258-31-8221

※ 予告なし製品仕様を変更する場合があります